「ノニ」の機能

今尾ゆき子

1．問題の所在

文と文とを接続する「ノニ」（S_1 ノニ S_2）には，二つの問題が存在する。ひとつは，接続のしかたが主観的か客観的かという発話態度に関する見解の対立である。前者は「ノニ」が話し手の期待や主張に反する論理の展開に用いられて，意外な気持ちや不合理・不満感を表すことから主観的接続を主張するものである[1)]。

（1）人が使っているのにだまって持っていくなんて。（西原 1985：33）

一方，後者は意志，勧誘，命令などの主観的表現が後続する場合に，「テモ」と「ケレド」は使用できるが「ノニ」は使用できないことを根拠にして，「ノニ」の客観的接続を主張するものである[2)]。

＊（2）雪が降るのにいらっしゃい。［勧誘］　（永野 1961：164）

＊（3）雪が降るのにでかけよう。　［意志］　（同上）

＊（4）お金があるのに，むだに使ってはいけません。［命令］
（Alfonso 1966：763）

もうひとつは，「ノニ」が順接機能を持つか否かという問題である。前件と後件に対立項（命題）が存在する場合を逆接，存在しない場合を順接とすると，次のような順接表現に用いられる「ノニ」は，逆接として機能するという解釈（5）と順接として機能するという解釈（6）がふたつながら存在するのである。

（5）［呼ばれないのに，返事をする］な。　（才田 1980：45）

（6）［体ノ調子ガ悪イ］ノニ，［働クナ！］　（仁田 1987：25）

本稿では，先ず心的態度の観点から「ノニ」と後件（主節）との共起関係を考察して，それが主観性の強い接続形式であることを指摘する。次に「ノニ」が順接機能を有するか否かに関し，文レベルにおいて「否定のスコープ」の枠組を用いて分析した後，談話文法の観点から考察を加える。これらの考察を通して「ノ

ニ」は対立項の存在が不可欠な主観的逆接機能を持つことを論証する。

2．後件との共起関係

話し手の心的態度（モダリティ）は，文頭の副詞や文末の終助詞などに顕現するが，文と文とを繋ぐ接続形式の選択にも大きく関与する。ここでは，「ノニ」と後件（主節）が表す心的態度との共起関係を考察し，「ノニ」が主観性の強い表現に用いられることを述べる。

2.1　意志，勧誘，命令表現との共起関係

先にも触れたように，「ノニ」には意志，勧誘，命令表現などが後続できないとの指摘がある（永野1961，Alfonso1966，鈴木1978）。これらの主観的表現と共起しないことを理由に，「ノニ」は客観的であるとみなされてきた[2]。しかし，否定辞が付加された（否定的含意述語を含む）場合は，意志・勧誘・命令表現が後続可能である。

（7）雪が降るのに，車では行きたくない（行くまい）。［意志］

（8）雪が降るのに，よしましょう。［勧誘］

（9）雪が降るのに，車で行くな。［命令］

また次のように，話し手の感情を直接的に表す情意表現も後続可能である。

（10）あれほどかたく約束したのに，ひどいねえ。［情意］（『手紙』222）

上例からも明らかなように，意志，勧誘，命令表現との共起関係だけで「ノニ」の主観・客観性を論じるのは不十分と考える。「意志表明」や「働きかけ」（仁田1989：5）のモダリティだけでなく，「感情の直接的表出」（寺村 1982：148）のモダリティも強い主観性を表すからである。本稿ではこれを「情意表出」のモダリティとして，以下にモダリティを表す形式との共起関係を考察する。

2.2　情意表出のモダリティ形式との共起関係

クワイン（1972：23-24）によれば，「ソシテ，シカシ，ナノニ」は，論理的意味において同じであるが，修辞的意味において次のような差異があるという。すなわち「対照性を強調する」時には「ソシテ」の代りに「シカシ」が，さらに「対照が驚きを生ずるくらい強くなったとき」には「ナノニ」が用いられる。修辞的意味を命題（論理）の外にある心的態度と解せば，上記三形式の相違点は主

観性の度合いによる相対的な差異とみなすことができる。このクワインを援用すると，「ノニ」は「ケレド」よりも相対的に主観性が強いという仮説が立てられる。次に示す1）～5）のモダリティ形式と「ケレド」「ノニ」との共起関係を比較考察し，この仮説を検証する。

1）感嘆の終助詞「カ」

2）評価の副助詞「トハ／ナンテ」

3）判断辞「ワケガナイ」

4）修辞疑問（反問）

5）反語の「カ／モノカ」

このうち 1）と2）は話し手の感動，評価を表わす情意表現の肯定形式，3）は真偽判断に関わる心的態度の否定形式，4）と5）は情意表現の否定形式である。

1）感嘆の終助詞「カ」

畠（1991：31）がいうようにモダリティを「言語形式の中に現れる話者の気持」とするならば，日本語の終助詞はモダリティを顕現する代表的な形式である。なかでも驚異や感慨を表す「カ（ノカ）」は，直情表現であるだけに，きわめて主観性が強い。この「カ」は「ノニ」とは共起するが，「ケレド」とは共起しない。

（11）忙しいのに（＊けれど），わざわざ来てくれたのか！

2）評価の副助詞「トハ／ナンテ」

話し手の評価を表す「トハ」と「ナンテ」は，本来，主題化の機能を持ち，後件に情意表現を伴う。この後件が省略されて終助詞化した「トハ」（あるいは「ナンテ」）を文末に付加すると「ノニ」は使えるが，「ケレド」は使うことができなくなる。

（12）こんな小さいのに（けれど），一人で来た。

（12'）こんな小さいのに（＊けれど），一人で来たとは。

上はプラス評価に用いられた例である。マイナス評価の場合も同様で，西原（1985：23）が強い主観性を表わすとして挙げた例文（1）においても，「ノニ」は使えるが「ケレド」は使えない。

（1'）人が使っているのに（＊けれど），だまって持っていくなんて。

3）判断辞「ワケガナイ」

説明のムードを表す「ワケダ」が「ノニ」「ケレド」のいずれとも共起するのに対して，「ムード自体の否定（modal negation）」形式である「ワケガナイ」は，「ノニ」とは共起するが「ケレド」とは共起しない。肯定形式には情意的要素が含まれないが，否定形式には情意的要素が含まれているからである[3)]。

（13）それで鋏が一挺しかないのに（けれど），毛抜きが二つあるわけだ。

（13'）鋏が一挺しかないのに（＊けれど），毛抜きが二つあるわけないじゃないか。（『思い出』112）

4）修辞疑問

宮地（1978：201）は「日本語における主観的情意表現の否定は疑問表現ないし反語表現を借りるものに限られる」と指摘し，それは情意表現の否定が「否定」の持つ論理的側面，すなわち「肯定に対立する否定（命題の否定）」という論理性を受け入れないからだと説明している。このように，論理性を排除する主観性の強い情意表現に「ノニ」の使用は許されるが，「ケレド」の使用は許されない。

（14）金が湯水の沸くように入るのに（＊けれど），どうして昔の女とその子どもに分けてやっては悪いというのか。（『生』213）

（15）だが，従来のコークに問題があることを知らされないのに（＊けれど），どうやってこれが理解できただろう。（『コーラ』188）

（16）「吾が家にいて何が不自由でもないのに（＊けれど），子を置いて嫁に行く女が他にあるやろか」（『香華』8）

5）反語の「カ／モノカ」

反語においても事情は同じである。反ばくする心持ちを吐露する場合に用いられる「カ／モノカ」にも，「ノニ」は共起するが「ガ／ケレド」は共起しない。

（17）はげ鷹のくちばしでつつかれているのに（＊けれど）しらふでなんかいられるものか。（『嵐』43）

（18）これまでなんとか生き延びてきたのに（＊けれど），むざむざ死んでたまるか。

以上の考察結果を表1にまとめる。2.1で検討した意志・勧誘・命令表現との共起関係についても付記する。

表1　モダリティ形式との共起関係

後件のモダリティ	モダリティ形式	ノ　ニ	ケレド
情意表出	1）詠嘆の終助詞「カ」	○	×
	2）評価の副助詞「トハ／ナンテ」	○	×
	3）判断辞「ワケガナイ」	○	×
	4）修辞疑問	○	×
	5）反語の「カ／モノカ」	○	×
意志表明	6）意志表現	△	○
働きかけ	7）勧誘表現	△	○
	8）命令表現	△	○

注）○は共起可能，×は共起不可能，△は否定表現のみ共起可能を表わす。

表1は，「ノニ」が意志・勧誘・命令のうち，より強い情意を含む否定表現とは共起すること，話し手の感情を直接的に表出する情意表現と「ノニ」は共起するが，「ケレド」とは共起しないことを示している。この考察結果は，「ノニ」のほうが「ケレド」よりも主観的な接続形式であることを示唆するものである。

3．否定のスコープからの分析　－順接の「ノニ」は存在するか－

前件と後件が対立しない場合に用いられる「ノニ」の機能については，それが逆接か順接か意見が分かれるところである。対立しない前件と後件とを接続する「ノニ」については，これまでにも才田（1980：37-47）や仁田（1987：13-27）が言及している。才田（1980：44-45）は，前件と後件は「カラ」と交替可能な順接の関係にあるとした上で，前件と後件の逆接関係全体に禁止あるいは否定表現が作用すると分析し，「ノニ」は逆接機能を持つという立場を取っている。

（19）［お金が無いのに，むだ使いする］な。

（20）［日本語が十分でないのに，日本語で講演する］なんてできっこない。

一方，仁田（1987：25）は「スルノニ」にあっては，逆条件づけとして言い切り節に命令・禁止をとることができない」が，「順条件づけに変化することによって，言い切り節に禁止を取りうる」と述べて，「ノニ」が順接機能を持つことを指摘している。

(21) 体ノ調子ガ悪イノニ，＊働ケ！／＊怠ケルナ！／＊仕事ヲ休メ！／働クナ！

この種の「ノニ」が逆接か順接かという見解の相違は,否定辞「ナイ」のスコープ（作用域）が「ノニ」を含む前件にまで及ぶか否かの問題として捉えることができる。否定のスコープについては、これまでにも談話文法，モダリティ，語用論など様々な観点から論じられてきた（Kuno : 1990, 1983, Ohye : 1881, 加藤 : 1985, 1989, 益岡 : 1989, 1991)。久野（1983 : 130）は，否定辞のスコープを，否定の焦点となる要素以外[4]は否定辞「ナイ」の直前の述語としている。複文における主文の否定辞のスコープについては，加藤（1989 : 210）が「それを含む最小の節であり，文境界を越えることができない」[5]と述べている。久野や加藤に従えば，先の例文（21）では，否定辞「ナ」のスコープが［働ク］までとなり，仁田（1987 : 25）が言うように「ノニ」は順接として機能することになる。

(21') 体ノ調子ガ悪イノニ［働くナ］！

しかし仁田（1987 : 25）は，逆接機能を持つ「ノニ」が，何故突然に順接機能へ変化するのかについては言及しておらず，「「スルノニ」は順条件づけに変化することによって言い切り節（後件）に禁止をとりうる」という「興味深い現象」として指摘するに留まっている。ところで，これに関連するものとして三上（1963）の接続形式を含む従属節の係り先と，南（1974）の従属句の内部構造と階層についての考察が挙げられる。三上（1963 : 299）は，連体接続という共通項を根拠に，「ノデ」と「ノニ」を「ノダ」の中止形に一括した上で，「ノデの前件と後件とは間をファイナルで遮られないから連続して一連の事件になる」と説明している。これを「ノニ」に援用すれば，「ノニ」が接続する前件と後件は「一連の」事柄となる。この三上，南の説および「か」と「ない」のスコープは「述語以外の要素にも及ぶ」という益岡（1989 : 204）の主張を合わせ採ると，前件と後件の逆接関係全体に禁止あるいは否定表現が作用することになり，「ノニ」は逆接として機能するという才田の解釈が導かれる。

(21") ［体ノ調子ガ悪イノニ働ク］ナ!

上の解釈は，命令表現の否定（すなわち禁止表現）だけでなく，次のような否定表現が後続する場合にも適用可能である。

(22) ［肝臓が悪いのに，酒なんか飲む］はずがない。

(23)［言いたくないのに，無理に言わ］なくてもよい。

また否定的含意表現である反語や修辞疑問文に用いられる「カ」についても，否定辞と同様に疑問助詞「カ」のスコープを考えれば，「ノニ」は対立項どうしを結ぶ逆接機能を持つという一貫性のある説明が可能となる。

(24)［肝臓が悪いのに酒なんか飲む］か

(25) 誰も聞こうとしないのにどうして説明しないといけないの。

どうして［誰も聞こうとしないのに説明しないといけない］の。

4．「ノニ」と「カラ」の交替

3．でも触れたが，前件と後件とが対立しない「ノニ」構文のうち，否定辞が付加された場合については，「ノニ」は「カラ」と交替可能であるとされている（才田 1980：44-45，仁田 1987：25）。ここでは，否定辞が付加されない「ノニ」構文をとりあげて，その交替可能性を検証する。

次は，「金の算段で頭が痛い」朋子が日頃から癇にさわっている引手の音を聞いて母親に苦情を言う場面である。

(26)「あんまりバタバタ音をさせないで下さいよ。ただでも頭の痛いことだらけだのに，苛々してしまう」（『香華』225）

上例は前件と後件が対立せず，しかも因果の関係にある。才田と仁田に従えば，「カラ」と交替可能な筈であるが，実際に「カラ」を使うとどうなるであろうか。

? (27)「あんまりバタバタ音をさせないで下さいよ。ただでも頭の痛いことだらけだから，苛々してしまう」

(27) では，「苛々してしまう」原因が［母親がタンスをバタバタさせること］ではなく，［ただでも頭の痛いことだらけ］となり，母親に対する非難が不当なものになってしまう。(26) の前件「ただでも頭の痛いことだけらだのに」は，先行文脈で述べられている［(そのうえ) 母親が箪笥をバタバタさせる］を省略することによって強調された焦点要素なのである。［ただでも頭の痛いことだらけな］のに［（そのうえ）母親がタンスをバタバタさせる］からいっそう苛々すると文句を言っているのである。

(26') ただでも頭の痛いことだらけだのに，φ（そのうえ母親が箪笥をバタバ

タさせ）苛々してしまう

この場合「カラ」で置き換えると不自然になるのは，「カラ」には対立項（そのうえ，母親が箪笥をバタバタさせる）が後続しないために，「ただでも～」に呼応する相方（counterpart）である「そのうえ（さらに）～」が存在せず，「ただでも～」が宙に浮いてしまうからである。次の例では，「ノニ」を「カラ」に置き換えることはできない。

母　　「太郎，太郎，太郎ったら」（何度も太郎を呼ぶ）

太郎　「・・・」（返事をしない）

(28) 母　　「何度も呼んでいるのに（＊から）返事ぐらいしなさいよ」

(28) で「ノニ」が使えて「カラ」が使えないのは，上例と同様に［返事をしない］という対立項が先行文脈に存在するためである。この対立項が無くなると「カラ」の使用が可能となり，反対に「ノニ」の使用が不可能となる。

(28')「何度も呼ぶから（＊のに）返事ぐらいしなさいよ」

以上，否定辞が付加されない場合を取り上げて，「ノニ」と「カラ」とは交替できないことを指摘したが，これは否定辞が付加された場合にも適用可能と考える。才田（1980：44-45）では，否定辞が付加された例文（19）において「ノニ」と「カラ」は交替可能であるとしている。

(19) お金が無いのに（から）無駄使いするな。

しかし（19）においても，［むだ使いする］という対立項が「予測あるいは決めつけ」の形で話し手の意識の中に前提条件として存在すれば，「カラ」ではなく「ノニ」が選択されるであろう。このように，「ノニ」と「カラ」の使い分けには対立項の有無が関与して，「ノニ」と「カラ」とは交替可能ではない。したがって，「ノニ」は必ず対立項が存在する条件下で逆接として機能し，「カラ」と交替可能な順接機能は持ちえないのである。

5．おわりに

本稿では，接続形式「ノニ」に関する二つの問題点を指摘し，それぞれについて対立する見解の妥当性を検証した。まず2．で「ノニ」は主観的か客観的かという問題を取り上げた。「ノニ」と情意表出のモダリティ形式との共起関係を考

察し，「ノニ」は主観的接続機能を持つことを論証した。「ノニ」が順接機能を有するか否かという問題に関しては，否定の「スコープ」から分析した後，談話文法の観点から「ノニ」と「カラ」の交替可能性を検討した。これらの考察結果に基づいて，「ノニ」は順接機能を有せず，必ず対立項を要求する主観的逆接機能を持つといえる。

注

1）浜田（1980：12），西原（1985：13），中畠（1990:53）などがある。

2）永野（1961：164），Alfonso（1966：763-764），鈴木（1978：247-248），森田（1980：384）などが主張している。

3）寺村（1984：271）は，「ナイハズダ」を命題に対する論理的否定（propositional negation），「ハズガナイ」をムードの否定（modal negation）とし，後者が「情意的要素を含む」ことを指摘している。

4）久野（1983：140）は，否定辞のスコープを，その直前の（否定辞が付加されている）述語（動詞，形容詞，「Xダ／デス」）に限定し，否定の焦点が反復して行われる出来事に関する「マルチプル・チョイス式」情報構造の焦点である場合を例外としている。

5）加藤（1989：209-210）は，「ダケ，シカ」などの付加詞を用いて否定のスコープを考察し，主文と補文の主語が同一の場合は，補文内の「ダケ，シカ」が主文の否定辞のスコープに含まれることを例外として挙げている。

（29）?彼は［花子しか来る］と思わなかった。

（30）彼は［英語しか話す］ことができない。

例文出典

有吉佐和子（1965）『香華』　新潮社　『香華』

宇野千代（1983）『生きていく私（上）』　毎日新聞社　『生』

トマス・オリバー（1986）仙名紀訳『コカ・コーラの英断と誤算』　早川書房　『コーラ』

南雲堂編集部編（1966）和英対訳シナリオシリーズ23『嵐が丘』　南雲堂　『嵐』

丸山透・桜井信夫（1982）『手紙とはがきの新百科』　学習研究社　『手紙』

向田邦子（1983）『思い出トランプ』　新潮社　『思い出』

参考文献

Alfonso Anthony（1966.1989）Japanese language patterns, Tokyo: Sophia University.

浜田留美（1980）「ガ，ノニ，ケレド（モ），ケド（モ）」『紀要』第4号国際学友会日本語学校　6-12.

畠郁（1991）「副詞論の系譜」『日本語教育指導参考書　19　副詞の意味と用法』国立国語研究所1-46.

加藤泰彦（1989）「否定のスコープ」井上和子編『日本文法小辞典』 大修館書店　208-212.

Kitagawa Chisato (1972) Expressions of purpose,emotive response,and contrariness to expectations－A study of Japanese NONI constructions Ph.D.diss., Michigan.

国立国語研究所（1951）『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』 秀英出版

Kuno Susumu (1980) "The scope of the question and negation in some verb-final languages",CLS 16,155-169.

Kuno Susumu (1982) "The focus of the question and the focus of the answer" CLS 18,134-167.

クワイン, W.O.(1972)　杖下隆英訳『現代論理入門』 大修館書店

益岡隆志（1989）「モダリティの構造と疑問・否定のスコープ」仁田・益岡編『日本語のモダリティ』 くろしお出版　193-210.

三上章（1972）『現代語法序説』 くろしお出版

南不二男（1974）『現代日本語の構造』 大修館書店

宮地裕（1978）『新版　文論』 明治書院

森田良行（1980）『基礎日本語　2』 角川書店

毛利可信（1980）『英語の語用論』 大修館書店

村田勇三郎（1982）『機能英文法』 大修館書店

永野賢（1958）『学校文法概説』 朝倉書店

中畠孝幸（1990）　「「という」の機能について」『阪大日本語研究』 2．43－55.

西原鈴子（1985）「逆接的表現における三つのパターン」『日本語教育』56号　28-38.

仁田義雄（1987）「条件づけとその周辺」『日本語学』 9月号　明治書院　13-27.

＿＿＿＿（1988）「現代日本語文のモダリティ体系と構造」仁田・益岡編『日本語のモダリティ』 くろしお出版　1-56.

Ohye Saburo(1981)"The scope of question and negation in Japanese:A problem in sentence processing",『文学研究』78号　1-27.

才田いずみ（1980）「「のに」と「ても」」『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』3　37-47.

鈴木忍（1978）『教師用日本語教育ハンドブック　③　文法Ⅰ助詞の諸問題1』 国際交流基金

寺村秀夫（1979）「ムード形式と否定」『英語と日本語と』 くろしお出版　191-222.

＿＿＿＿（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』 くろしお出版

＿＿＿＿（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版

（いまお　ゆきこ　日本言語文化）